

熊本県球磨地域における冷凍加工用春播きホウレンソウの栽植密度

○泉 拓史・児玉賢幸<sup>1)</sup>・森田敏雅<sup>2)</sup>

(熊本農研セ球磨・<sup>1)</sup>菊池地域振興局・<sup>2)</sup>熊本農研セ)

【目的】

熊本県球磨地域では食品冷凍加工向け冬春ホウレンソウの栽培が普及しつつあるが、春作に適した品種の播種日や栽植密度についてはまだ明らかにされていないところが多い。

前回の報告では、抽だいの恐れがなく5月下旬の収穫が可能で、10a当たり4t以上の収量が期待できる品種を選定した。さらに、出荷時に雑草や害虫等の混入を防ぐための栽培法が産地から求められている。

そこで、春作早期出荷用の現行品種を用い、収量性、抑草性および作業性に優れた栽植密度を明らかにする。

【材料および方法】

供試品種は「スーパーアーリーナ7」を用いた。畝幅140cm、株間10cmとし、条間10cm(7857株/a)、同20cm(3571株/a)、同30cm(2857株/a)(現行)の3試験区を設け、1区12.6m<sup>2</sup>3反復とし、1株1粒を点播し補植はしなかった。全ての試験区が草丈45cm程度に達してから、各区1.4m<sup>2</sup>ずつの全株を収穫し、出荷要領に準じて調整し、その重量を加工収量とした。なお、播種は2009年2月12日と3月18日、収穫はそれぞれ4月27日と5月8日に行った。また、施肥(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O)については2.0:1.5:1.6 kg/10aを全量元肥として施用した。播種後に除草剤を土壌処理し、以後は除草しなかった。

【結果および考察】

いずれの播種日とも条間が狭くなるほど収穫時点の草丈は高く、加工収量が多い傾向にあった(図1)。収穫時点の株の生育はいずれの播種日とも条間が狭くなるほど1株重が軽く、特に条間10cm区では葉身が小さく、葉柄が長く、葉色が薄い傾向にあった(表1)。また、収穫前の雑草発生量は条間10cm区で少ない傾向にあった(図2)。加工収量1kg当たり収穫時間は、条間10cm区が他の2区より長くなる傾向にあり(データ略)、密植による株生育量の低下と葉の絡まりの増加が影響したことが推察された。

以上のことから、現行より条間を狭め栽植密度を上げることで増収性と雑草発生の低減が見込まれるものの、条間10cmでは株が徒長し、収穫葉の品質

や作業効率の低下がみられた。現行の条間30cmと比べ、1株重の低下が少なく増収が見込まれ、雑草発生もやや少ない条間20cmが有望と考えられた。

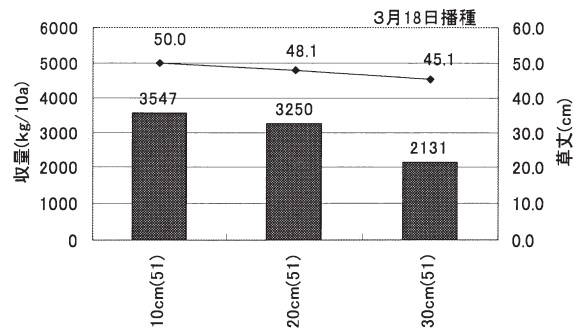
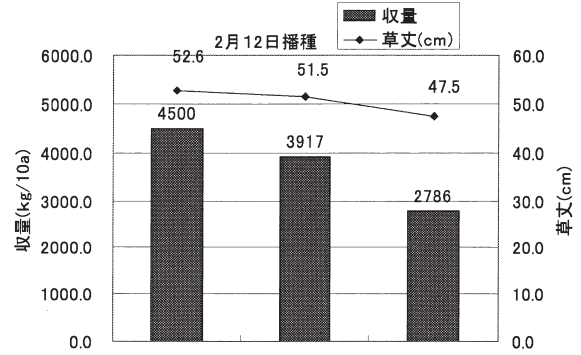


図1 異なる条間ごとの収量と草丈

表1 異なる条間ごとの株形質

播種日	試験区	1株重 (g)	葉数 (枚)	最大葉長 (cm)	最大葉幅 (cm)	最大葉柄長 (cm)	葉色 (SPAD)	赤軸長 (cm)	抽だい株率 (%)
2月12日	10cm	127.4	16.4	18.3	13.1	29.7	51.9	1.4	0.0
	20cm	204.5	17.3	22.0	15.4	26.5	54.0	1.3	16.7
	30cm	228.0	16.7	22.5	16.8	23.0	54.5	1.2	16.7
3月18日	10cm	131.6	12.7	19.2	14.0	30.2	46.6	1.3	0.0
	20cm	192.1	13.7	22.7	17.2	22.6	62.4	1.5	0.0
	30cm	196.9	12.6	21.9	16.8	20.9	65.8	2.2	0.0

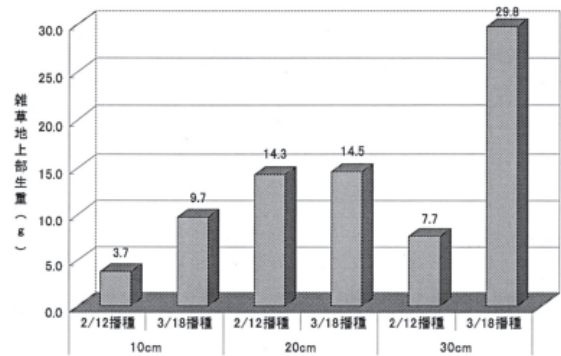


図2 異なる条間ごとの雑草発生量